

## 国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善に関する意見

昭和 51 年 11 月 18 日

国立大学協会

第 59 回 総会 承認

国立大学協会は、昭和 45 年から調査研究を続けてきた国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善について、本第 59 回総会において次の結論に達した。

前総会において、大学入学者選抜の改善に資するものと認めた国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜方法の改善は、その後、残された問題点の検討と、その実施に対して必要な諸施策の具体化について、文部省とも協議を行った結果、それらの実現に対する見通しを得たので、昭和 54 年度大学入学者選抜から実施可能であると考える。

本方法は全国立大学共通の第一次試験と、各大学が独自に行う第二次試験とからなるものである。共通第一次試験では、全国的に共通で適切な問題を課することによって、高等学校における学習の達成度を評価し、各大学がその特性に応じ、自主的に行う第二次試験は、共通第一次試験の趣旨と方法に対応しつつ、各大学・学部への入学志願者の能力と適性を検することを主眼とする。

この共通第一次試験の実施のために設置される「大学入試センター(仮称)」は、全国立大学の意志を十分に反映し得る共同で利用する機関であり、各大学と協同して共通第一次試験の円滑な実施にあたりるとともに、大学入学者選抜に関する継続的な研究を行うものである。

各大学においては、本方法による大学入学者選抜に関する諸施策が講ぜられるとともに、第二次試験のあり方について、それぞれ、各大学は早急に自主的な検討をすすめ、当協会においても、この点について連絡調査にあたる。

また、さきに当協会は「入学者選抜期日の一元化」を可としてきたが、これも国立大学共通第一次試験実施による大学入学者選抜と同時に行われることが望ましい。

なお、共通第一次試験の実施に関する諸問題については、引き続き文部省と連絡協議することとする。